

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00905

研究課題名(和文) イエズ会の日本人宣教師：元仏教僧侶の分析を中心に

研究課題名(英文) The Japanese Members in the Society of Jesus in Japan: analyzing the former Buddhist monks

研究代表者

岡 美穂子 (Oka, Mihoko)

東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・准教授

研究者番号：30361653

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、16・17世紀のイエズ会の日本布教において、これまでその存在がほとんど語られてこなかった日本人の宣教師の実情を明らかにすることであった。ここでは、日本人修道士に加え、正式にはイエズス会員としては認可されていなかったセミナリオの学生、修道士(イルマン)見習い、或いは修道施設内部の「高度な雑役」の担い手である「同宿」を研究対象とした。具体的には、本邦においては未刊の欧文史料(主にローマイエズス会文書館所蔵史料)の収集・分析を中心に、これまでヨーロッパ人宣教師を主体に語られてきた、従来の日本のキリスト教布教史に、全く異なる見方を導入することを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究期間には、3冊の英文図書を出版した。うち単著であるThe Namban Tradeは海外の学術雑誌3冊において書評が掲載され、海外の著名な賞を受賞した。直結する研究成果は、2022年中に刊行予定であるCambridge History of Japan vol.1に英文論文(単著)として採用され、日本語でも講座論文等を執筆し、社会に広く認知された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the importance of Japanese missionaries, whose presence in the 16th and 17th century Jesuit missionary work in Japan had been largely unknown until now. In addition to the Japanese friars, the study included seminary students who were not officially recognized as Jesuits, apprentice friars, and "dojokus" who were responsible for "high-level miscellaneous work" in the proselytization. Specifically, we have attempted to introduce a completely different perspective to the conventional history of Christian missionary work in Japan, which has been told mainly by European missionaries, by focusing on the collection and analysis of European historical documents not yet published in Japan (mainly documents held by the Archives of the Society of Jesus of Rome).

研究分野：日本宗教史、東アジア海域史

キーワード：海域アジア史 日本宗教史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究では、16・17世紀のイエズス会の日本布教において、これまでその存在がほとんど語られてこなかった日本人の宣教者について、その詳細を可能な限り明らかにし、日本イエズス会内部の構造的な問題が、国策としての「禁教」とも深い繋がりを持つことを実証する。ここでは、日本人修道士に加え、正式にはイエズス会員としては認可されていなかったセミナリオの学生、修道士(イルマン)見習い、或いは修道施設内部の「高度な雑役」の担い手である「同宿」が研究対象となる。彼等は日常的なキリシタン信徒の指導、ミサにおける説教、葬儀、諸秘跡の儀礼において中心的な役割を担っていたにもかかわらず、今日、史料から名前を明らかにすることすら困難な存在である。研究代表者は、本邦においては未刊の欧文史料(主にローマイエズス会文書館所蔵史料)の収集・分析を中心に、日本人宣教者の実態に迫るべく、これまでヨーロッパ人宣教師を主体に語られてきた、従来の日本のキリスト教布教史に、全く異なる見方を導入することを試みる。

2. 研究の目的

本研究では従来のキリシタン史研究に欠落してきた、ヨーロッパ人宣教師と日本人信徒、さらには日本社会を繋ぐ存在であった「日本人宣教者」に関する諸問題を検討することで、キリシタン史研究のビジョン・枠組みに新たな手法を導入することを目的としている。具体的には、イエズス会において「同宿」と日本人修道士が担った役割、彼等の出自や行動の特徴、ヨーロッパ人宣教師による日本人宣教者についての認識を検証した上で、最終的に多くの日本人がイエズス会を離れ、還俗ないしは他修道会に移籍した経緯を詳細に考察する。その過程において、これらの「落伍者」の中に、江戸幕府の禁教政策、キリシタン理解に重要な役割を果たす者があったことを明らかにする。「落伍者」の代表格として知られるファビアン不干斎(臨済宗僧侶からイエズス会に転向)については数多の研究が存在するが、その脱会と棄教の原因は、イエズス会側の見解である「女性問題」であったという認識にとどまってきた。私は日本人宣教者の役割と待遇についての考察を重ねる中で、ファビアンの脱会の年が、京都の下京教会で彼の同僚であった原マルチノと中浦ジュリアン(ヨーロッパ留学経験者)の司祭叙階年と重なることに気づき、日本イエズス会内部の構造的矛盾(役割の重軽と待遇が比例しない)が、家康に信任されていたファビアンの失望と棄教を引き起こしたと考えるに至った。このような知識・経験の深い修道士の離脱と幕府方への転向があつてこそ、江戸幕府の禁教政策が具体化し得たと考える。

また、ヴァリニャーノの第一次日本視察以後は、日本人司祭養成を視野に含む「適応」方針が「金科玉条」的に採られたとの認識が一般的であるが、実際には、ヴァリニャーノ来日以後も、ほとんどがポルトガル人であった日本(副)管区長の中には、日本人を明確に差別する者がおり、彼等の下で「同宿」の多くの離反者が生じた要因も多角的に詳しく検討したい。彼等の「離反」については、従来、イエズス会内に存在した「人種差別」が理由として挙げられる。この点に関しては、単なる人種主義的差別としてではなく、日本人のどういった点が、ヨーロッパ人イエズス会士にとって「不適格」と見なされたのかも、文化や宗教観の根本的な相違や「適応」の限界を知る上で、細かに検証する必要がある。

3. 研究の方法

日本人修道士や「同宿」のうち、個人的背景が分かる者は非常に限られており、本研究で明らかにできる個人に関して、ケース・スタディ的なものになる可能性がある。とはいえ、これまで彼らの個人的なバックグラウンドに着目した研究は存在せず、開教から禁教に至るまでのキリシタン史研究において、彼らの行動がキリシタン史の大きな流れ(具体的には江戸幕府の禁教政策)とリンクしている可能性についても触れられたことはないため、日本人宣教者について体系的な研究を行うこと自体が、画期的であると考え。主な分析対象史料は、本邦において未公開のローマイエズス会文書館所蔵文書(通称 JAPSIN)である。JAPSIN 文書のマイクロフィルムは上智大学図書館のキリシタン文庫にも所蔵されるが、画像の質は良好とはいえないため、イエズス会文書館内における史料の閲覧とデジタル画像の獲得が必要である。

新規史料開拓によって明らかにしようとする主な考察トピックは次の点である。

- (1) 統一政権為政者による「キリシタン」認識：信長・秀吉・家康のキリシタン認識。
- (2) 宣教師の外見的問題：言語・服装・仏教寺院から転用された教会。
- (3) ヴァリニャーノの「適応」方針における日本人宣教者育成観：「日本イエズス会礼法指針」「管区会議記録」「日本諸事要録」「諸事要録補遺」等の分析。
- (4) 同宿の出身と仏教寺院内の同宿の職掌。
- (5) イエズス会内の同宿の職掌と階層：セミナリオの学生、茶の湯者の同宿、雑役をおこなう同宿、貿易実務をおこなう同宿、別格的存在「説教師の同宿」等の分類について。
- (6) 同宿の最終発展形としての日本人修道士
- (7) 日本人司祭：叙階に重視された要素
- (8) イエズス会内部におけるヨーロッパ人宣教師の「適応」廃止論

- (9) 江戸幕府禁教期前後の同宿の離脱
- (10) 離脱「同宿」を「司祭」として受け入れたスペイン系托鉢修道会の見解
- (11) 天正少年遣欧使節と不干斎ファビアン：江戸幕府禁教政策ブレンとしての元修道士不干斎ファビアン。

4. 研究成果

本研究期間には、*A Maritime History of East Asia* (Kyoto University Press, 2019 共編)、*The Namban Trade* (Brill, 2021 単著)、*War and Trade in Maritime East Asia* (Palgrave Macmillan, 2022 編著) の3冊の英文図書を出版し、その刊行において発生した英文校閲費用、献本費用などを本研究費より支出した。*The Namban Trade*は海外の学術雑誌3冊において書評が掲載され、2021年にはポルトガル共和国のThe Orient Foundation大賞に選出された。課題に直結する研究成果は、2022年中に刊行予定である*Cambridge History of Japan vol.1*に英文論文(単著)として採用され、本邦では斎藤晃編『宣教と適応』(名古屋大学出版会2020年)、『日本宗教史』第4巻(吉川弘文館2020年)などで論文を発表し、研究成果が広く一般社会ならびに海外において知られるべく努めた。これらの論文で具体的に明らかにしたのは、次のような点である。

初期の頃に導入され、「原語主義」への修正により改正されたと考えられてきた訳語の問題は、16世紀末あたりまでは、厳密には是正されなかった。

訳語の問題のみならず、旧来存在する仏教寺院に住み着き、日本人にはそのまま「寺」と呼ばせる宣教師たちは、「天竺僧」として認識されていた。

日本人の「天竺僧」に対する認識は、ヴァリニャーノが仏教僧侶(とくに臨済宗)の作法を模倣すると定めたことにより、より一層固定化された。

日本人信徒を実際に日本語で指導するのは、日本人の修道士や同宿たちであり、その多くが仏教僧侶の出身で、剃髪もしていた(つまり外見上は仏教僧侶の時と変わらなかった)。

1587年時点での秀吉の認識は、キリシタンは「邪法」であるが、「法」の内側にあるものとの認識であった。よって「八宗九宗(在来宗教)」として天下に従うものであれば、排除されなかった可能性がある。

1592年のフィリピン総督使節としてのファン・コボの来日は、イエズス会にとって、他修道会との布教地の争奪の脅威のみならず、仏教僧侶という現地の認識に甘んじる、過度の「適応」の在り方をヨーロッパに暴露される危険性を孕むものであった。ペドロ・ゴメスとファン・コボの間で何らかの対話がなされ、以後イエズス会の出版物が、より原語主義的なものへと変容した可能性がある。26 聖人殉教(主にフランシスコ会関係者)がイエズス会の陰謀であるという、同時代の托鉢修道会からの糾弾の存在(アウグスティノ会史料)。

『妙貞問答』(1605)は、日本の在来宗教との相違を明確にする目的で著わされたものである。つまりそれ以前は、「同一視」が一般的であった。

16世紀末に始まる急激な「原語主義」や『妙貞問答』の発表は、イエズス会が日本の在来宗教との同一視からの脱却の試みを決意した結果のように思われる。それは一定の効果があり、幕府の上層部でも認識されるようになった。その結果、江戸幕府の禁教政策の「たてまえ上」の論理が補強された。とはいえ、江戸幕府が禁教に踏み込む理由は、外交、交易の問題点からも複数存在するので、この点だけを理由と考えるべきではない。

金地院崇伝は、1608年の時点ではまだ「仏法」とであると認識していた。民衆レベルでは、「仏法」認識はもっと長く続いたであろう。「仏法」ではないと世間に広く認識されていくのは、禁教政策が進み、公儀が殉教者を出すことではなく、論理と説得による棄教を重視していく過程に並行していると思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Oka Mihoko	4. 巻 1
2. 論文標題 The Catholic Missionaries and the Unified Regime in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Chu C.Y., Leung B. (eds) The Palgrave Handbook of the Catholic Church in East Asia. Palgrave Macmillan, Singapore.	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-15-9365-9_29-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 1
2. 論文標題 世界史の中の石見銀	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 石見銀山遺跡 関連講座記録集	6. 最初と最後の頁 2-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 1
2. 論文標題 グローバルな視点から見た南蛮貿易と石見銀山 予稿	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 石見銀山研究	6. 最初と最後の頁 8-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 223
2. 論文標題 海と権力 宣教師報告に見る畿内=九州移動ルートの分析を手掛かりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 387-405
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 -
2. 論文標題 銀の島日本に関する情報をめぐって スペイン・ポルトガルのアジア戦略	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿毛敏夫編『硫黄と銀の室町・戦国』思文閣出版	6. 最初と最後の頁 25-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 1
2. 論文標題 大航海時代のキリスト教と東アジア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア文化講座1巻 染谷智幸編『はじめに交流ありき--東アジアの文学と異文化交流』文学通信	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 4
2. 論文標題 キリスト教の伝来と日本社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上島亨・佐藤文子編『日本宗教史 宗教の受容と交流』吉川弘文館	6. 最初と最後の頁 297-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 -
2. 論文標題 マカオからみる十六・十七世紀の日・タイ関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 飯島明子・小泉順子編『世界歴史体系 タイ史』山川出版社	6. 最初と最後の頁 198-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 -
2. 論文標題 キリシタン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本思想史事典 丸善出版	6. 最初と最後の頁 365 367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 -
2. 論文標題 16世紀「大航海」の時代とアジア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田茂編『グローバル化の世界史』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 71-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 -
2. 論文標題 僧形の宣教者	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 齋藤晃編『宣教と適応』名古屋大学出版会	6. 最初と最後の頁 354-390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 98
2. 論文標題 天正少年遣欧使節の光と影 キリシタン版と製作に関わった日本人	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東京大学大学院情報学環紀要』	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 -
2. 論文標題 近代の日本とマカオ、そしてポルトガル 香港および中国との関係という視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇（共編）『描かれたマカオ ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史』	6. 最初と最後の頁 156-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 0
2. 論文標題 野中騒動と聖画	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 松川隆治・大石一久・小林義孝編『天地始りの聖地 長崎・外海の潜伏・かくれキリシタンの世界』	6. 最初と最後の頁 145-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 22 - 1
2. 論文標題 日本人のキリスト教受容とイエズス会の《適応》	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本宗教文化史研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件（うち招待講演 20件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 街道からみる南蛮貿易のまち豊後府内とエヴォラ
3. 学会等名 南蛮BVNGO講演会 & Marionetteコンサート～歴史と音楽でつながる大分・ポルトガル（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 南蛮貿易の大村領誘致の背景 大友宗麟の思惑と国内流通ルート
3. 学会等名 長崎開港450周年公開学習会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 長崎のユダヤ人
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター講座 ユダヤ人と離散の歴史（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mihoko Oka
2. 発表標題 The Namban Trade and the Slavery in the East Asia.
3. 学会等名 EWAH Womans University, Department of History, Invited Lecture（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 16・17世紀の日本における 政治的贈答品としての南蛮料理 ー日本の味覚革命と“南蛮”
3. 学会等名 歴史学会大会シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 国際交易都市マカオと改宗ユダヤ人
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター講座 ユダヤ人と離散の歴史（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 キリシタン布教手段についての一考察
3. 学会等名 史料編纂所特定共同研究研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 大航海時代の日本人奴隷
3. 学会等名 咲耶会東京支部会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mihoko Oka
2. 発表標題 Japanese Silver and the Namban Trade in 16th Century Japan
3. 学会等名 Global History Seminar by Osaka University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 グローバルな視点から見た南蛮貿易と石見銀山
3. 学会等名 第一回石見銀山研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 戦国武将たちの南蛮船誘致合戦
3. 学会等名 おおいた大友学セミナー 戦国史シンポジウム 戦国大名と鉱物物資（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 キリシタン 日本的なものが生じた背景
3. 学会等名 世界文化遺産登録2周年記念「潜伏キリシタンの祈りの世界」展記念講演（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 ポルトガル船の入港地変遷をめぐって 日本銀との関連から
3. 学会等名 大村市主催令和2年度郷土史講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 世界史の中の石見銀山
3. 学会等名 島根県世界遺産講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 キリシタン版と製作に関わった日本人
3. 学会等名 きごさい（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 南蛮文化のルーツを訪ねて
3. 学会等名 知求アカデミー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 キリシタン版と日本人製作者
3. 学会等名 人間文化研究機構プレス懇談会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 パテレン追放令（1587）前後から文禄の役（1593）までのイエズス会の動向と秀吉政権
3. 学会等名 一橋大学ワークショップ「越境する東アジア：16世紀後半から17世紀前半を中心に」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 16世紀イエズス会宣教師報告に見る日本の海上交通
3. 学会等名 歴博共同研究「中世日本の国際交流における海上交通に関する研究」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 The Christianity as a Sect of New Buddhism focusing its appearance and adaptation policy
3. 学会等名 Japan's Long Past in Cambridge History of Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mihoko Oka
2. 発表標題 The Forgotten Event "the Affair of Paulo dos Santos" -the process for expulsion of Portuguese from Japan in 1630s-
3. 学会等名 International Congress -EurasiaTrajeco-GECEM Project- (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mihoko Oka
2. 発表標題 Nanban Trade and Shuinsen Trade in 16th and 17th Century Japan-focusing on their players/actors
3. 学会等名 0 Congresso Internacional subordinado ao tema Poder, Globalization e o Territorio e Sociedades Ibero-Americanas da Modernidade e Contemporaneidade (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mihoko Oka
2. 発表標題 In the Shadow of the Successful Missionary Work of the Society of Jesus: Japanese Irumans and Dojukus
3. 学会等名 22nd Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mihoko Oka
2. 発表標題 Japanese Christian Merchants in the Portuguese Nagasaki trade from the 16th to 17th centuries-
3. 学会等名 International Symposium "Global History and Hybrid Political Economy in Early Modern Eurasia, c.1550-1850 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Mihoko Oka	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 282
3. 書名 War and Trade in Maritime East Asia	

1. 著者名 Mihoko Oka	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 277
3. 書名 The Namban Trade Merchants and Missionaries in 16th and 17th Century Japan	

1. 著者名 ルシオ・デ・ソウザ、岡 美穂子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 256
3. 書名 増補新版 大航海時代の日本人奴隷	

1. 著者名 Haneda Masashi, Oka Mihoko	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kyoto University Press, TPP	5. 総ページ数 392
3. 書名 A Maritime History of East Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>researchmap 岡美穂子 https://researchmap.jp/read0066505</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------